

2019年5月14日

2019年3月期
連結決算説明資料

双葉電子工業株式会社

目次

- 業績ダイジェスト P1
- 市場地域別売上高 P2
- 営業利益差異分析 P3
- セグメント別業績状況 P4
- 貸借対照表の状況 P5
- 業績見通し P6~7
- 中期経営計画と見通し P8
- 今後の重点施策 P9

業績ダイジェスト

- 売上高は生産器材で増収になったものの、電子デバイス関連で減収となったことから、全体では前期より減少
- 当期純利益は特別損失(固定資産の減損損失)の計上により大幅な減益

(単位：百万円)

	'17年度 (実績)	'18年度 (実績)	前期比較 増減額	'18年度 (計画)	計画比較 増減額
売上高	69,353	67,083	▲2,270	67,500	▲416
売上総利益	14,343	13,526	▲817	14,795	▲1,269
利益率(%)	(20.7)	(20.2)		(21.9)	
営業利益	726	323	▲402	500	▲176
利益率(%)	(1.0)	(0.5)		(0.7)	
(為替差損益)	(▲330)	(405)	(735)	(101)	(303)
経常利益	997	1,460	463	1,300	160
利益率(%)	(1.4)	(2.2)		(1.9)	
当期純利益 [※]	1,179	▲16,015	▲17,195	▲1,300	▲14,715
利益率(%)	(1.7)	(▲23.9)		(▲1.9)	
平均為替レート	111円/\$	111円/\$	0円/\$	110円/\$	1円/\$
期末日為替レート	106円/\$	111円/\$	5円/\$	110円/\$	1円/\$

当期の特徴

売上高

蛍光表示管の需要減、タッチセンサーの海外向けの低迷を受け減収

営業利益

蛍光表示管の生産体制の整備遅れ、原材料価格の高騰による影響を受け減益

経常利益

為替差益の増加等により増益

当期純利益

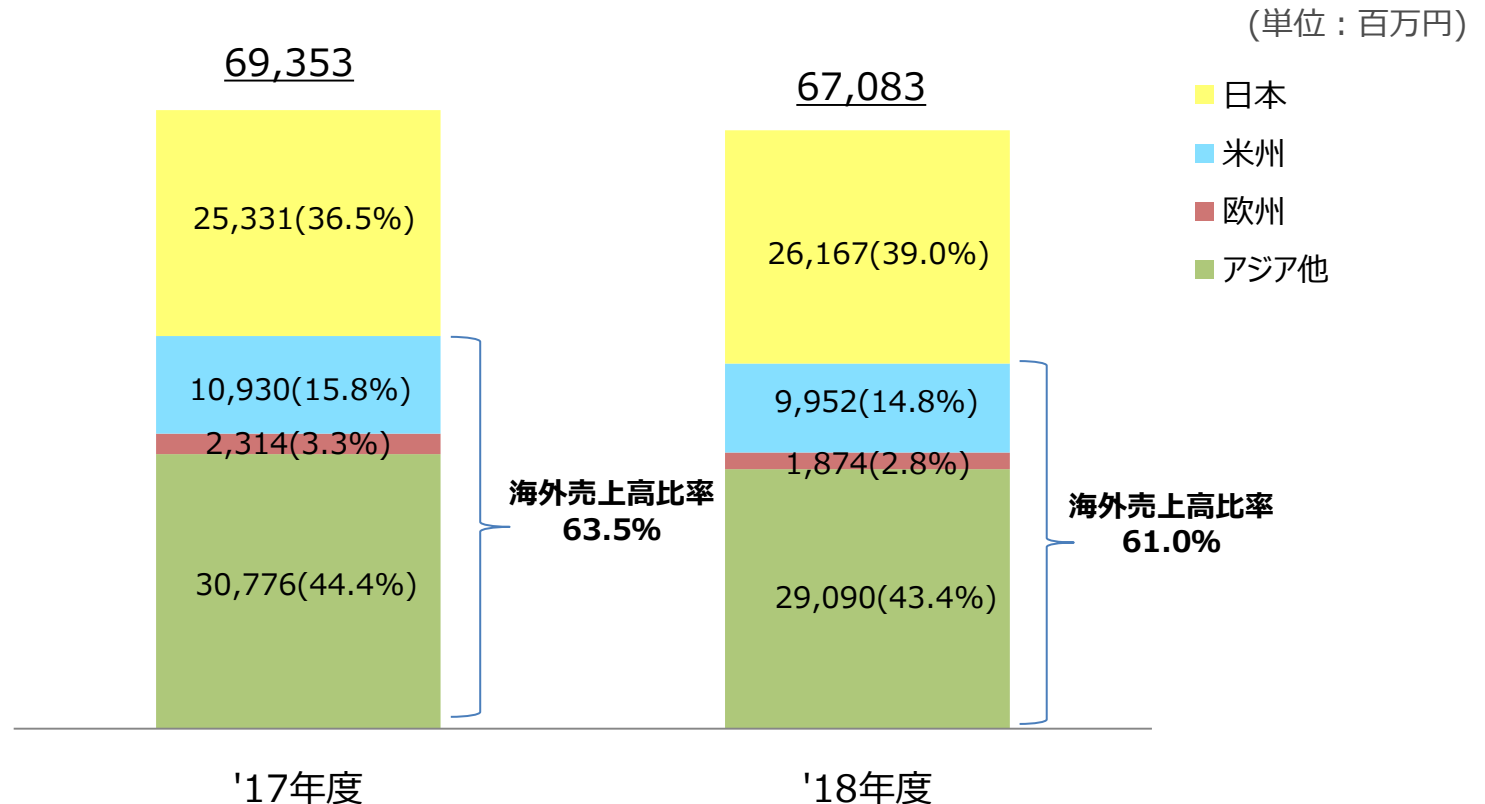
蛍光表示管、タッチセンサー等の減損損失計上により大幅な減益

(注)計画は、2019年2月8日に公表した業績予測数値です。

※ 当期純利益とは、親会社株主に帰属する当期純利益を指しています。

市場地域別売上高

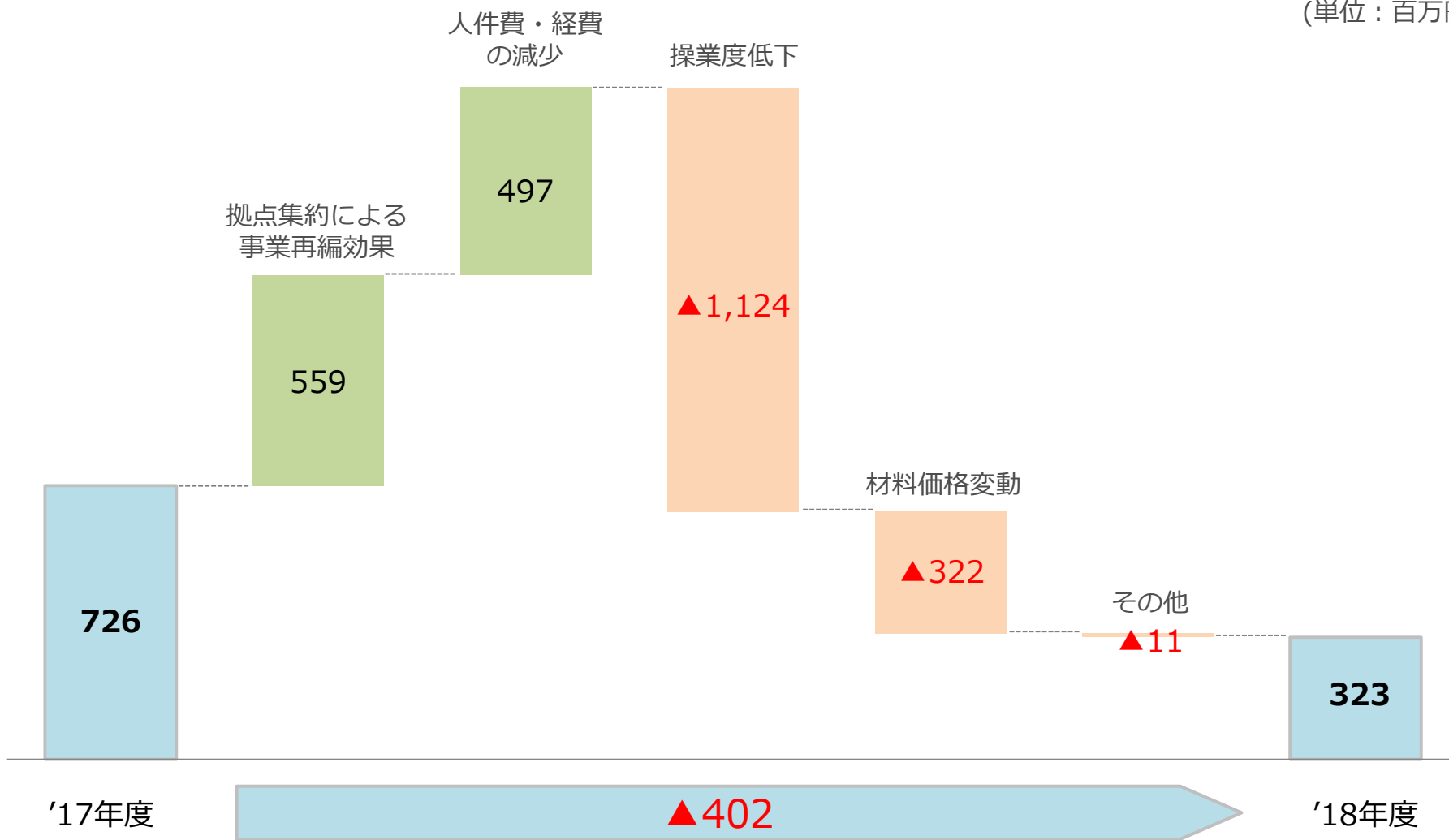
- ▶ 日本 : タッチセンサーの伸長により+8億円の増収
 - ▶ 米州 : タッチセンサー、複合モジュール(受託生産)の低迷により▲10億円の減収
 - ▶ 欧州 : タッチセンサーの低迷により▲4億円の減収
 - ▶ アジア他 : 生産器材の回復があったものの、蛍光表示管、有機ELディスプレイの需要減により▲17億円の減収
- 海外売上高比率 : タッチセンサー、蛍光表示管、有機ELディスプレイの海外向けの低迷により低下



(注) ()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。

営業利益差異分析

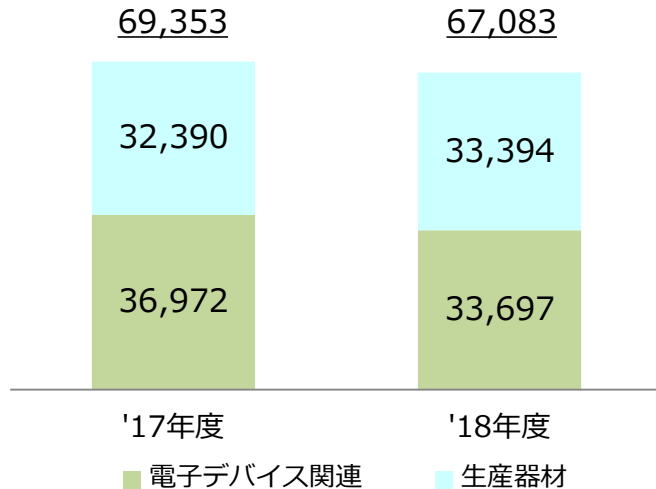
(単位：百万円)



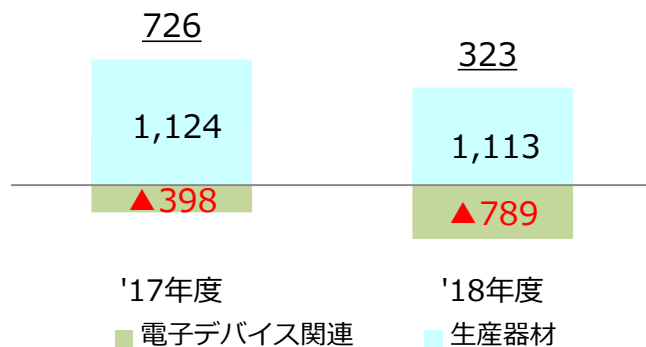
セグメント別業績状況

(単位：百万円)

売上高



営業利益



売上高

<電子デバイス関連>

- ▶ **蛍光表示管**：車載、音響用途ともに需要減により減少
- ▶ **有機ELディスプレイ**：国内の車載用途は伸びたものの、海外の映像用途や通信機用途が低迷したことから減少
- ▶ **タッチセンサー**：車載用途の国内向けは伸ばした一方、海外向けが低迷し減少
- ▶ **複合モジュール**：計測器用途は順調に推移したものの、POS用途が低迷したことからやや減少
- ▶ **産業用ラジコン機器**：国内のトラッククレーン向けやFA向けが順調に推移し、また、北米向けも伸びたことから増加
- ▶ **ホビー用ラジコン機器**：欧米向けは順調に推移した一方、コマンド方式サーボの国内向けが低迷したことにより減少

<生産器材>

- ▶ 国内では、モールド金型用器材の低迷があったものの、成形合理化機器の好調、また、プレス金型用器材およびプレート製品も増加したことからやや増加。海外では、自動車向けが前期並みであった一方、スマートフォン向けの好調により増加

営業利益

<電子デバイス関連>

- ▶ タッチセンサーの安定生産による改善があった一方、蛍光表示管の生産体制整備の遅れや有機ELディスプレイの売上減などの影響から利益が減少

<生産器材>

- ▶ 成形合理化機器の好調、また、プレス金型用器材およびプレート製品の売上げ増などがあったが、材料価格の高騰などによる影響で利益がやや減少

(注) 各セグメントの売上高および営業利益は、内部取引を含んでいます。

貸借対照表の状況

- 総資産：▲237億円の減少
減少要因：特別配当支払いによる現預金の減少
減損損失計上による固定資産の減少
- 純資産：自己資本比率 79.9%(前期82.0%)

(単位：百万円)

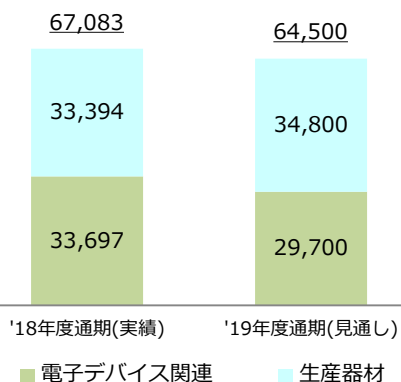
	2018年3月末	2019年3月末	増減
現預金	50,699	46,867	▲3,832
売上債権	18,538	18,467	▲71
棚卸資産	15,274	16,647	1,373
その他流動資産	1,900	2,682	782
固定資産	57,123	35,187	▲21,936
資産合計	143,537	119,851	▲23,686
流動負債	12,430	11,433	▲997
固定負債	3,675	2,329	▲1,346
自己資本	117,738	95,778	▲21,960
非支配株主持分	9,692	10,310	618
負債及び純資産合計	143,537	119,851	▲23,686

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」に伴い、前期末数値を一部変更して記載しています。

業績見通し(1)

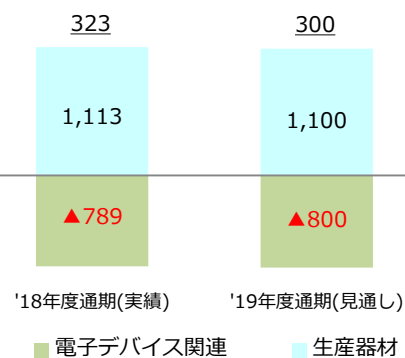
(単位：百万円)

売上高



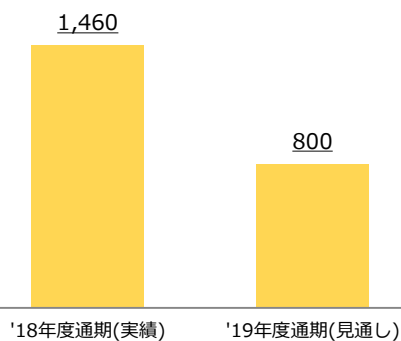
(単位：百万円)

営業利益



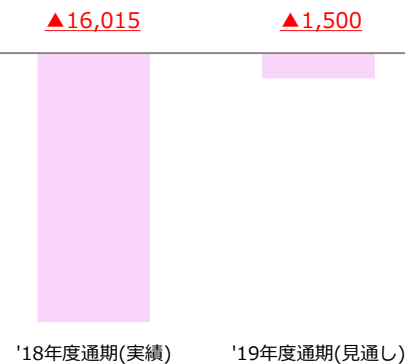
(単位：百万円)

経常利益



(単位：百万円)

当期純利益 ※



(単位：百万円)

	'18年度 通期(実績)	'19年度 通期(見通し)	増減額	前期比
連結合計				
売上高	67,083	64,500	▲2,583	96.1%
営業利益	323	300	▲23	92.7%
利益率(%)	(0.5)	(0.5)		
電子デバイス 関 連				
売上高	33,697	29,700	▲3,997	88.1%
営業利益	▲789	▲800	▲10	-
利益率(%)	(▲2.3)	(▲2.7)		
生産器材				
売上高	33,394	34,800	1,405	104.2%
営業利益	1,113	1,100	▲13	98.8%
利益率(%)	(3.3)	(3.2)		
(為替差損益)	(405)	(▲41)	(▲446)	-
経 常 利 益	1,460	800	▲660	54.8%
利益率(%)	(2.2)	(1.2)		
当 期 純 利 益 ※	▲16,015	▲1,500	14,515	-
利益率(%)	(▲23.9)	(▲2.3)		
平均為替レート	111円/\$	110円/\$	▲1円/\$	

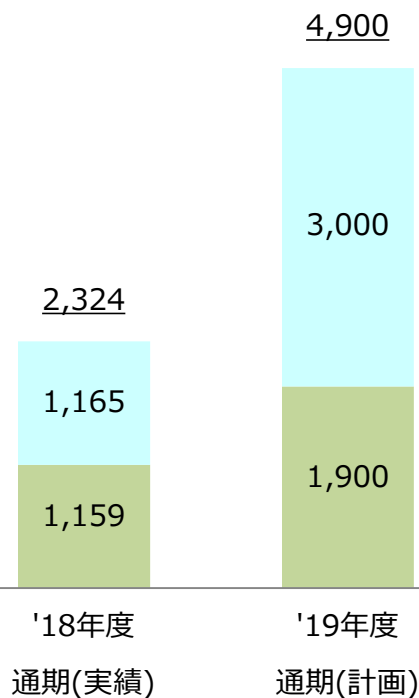
(注) 各セグメントの売上高および営業利益は、内部取引を含んでいます。

※ 当期純利益とは、親会社株主に帰属する当期純利益を指しています。

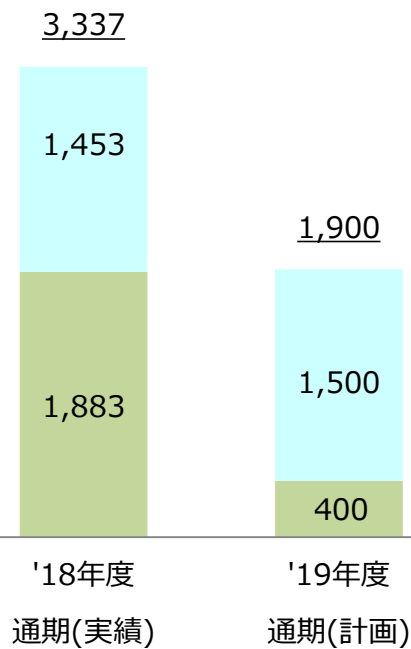
業績見通し(2)

(単位：百万円)

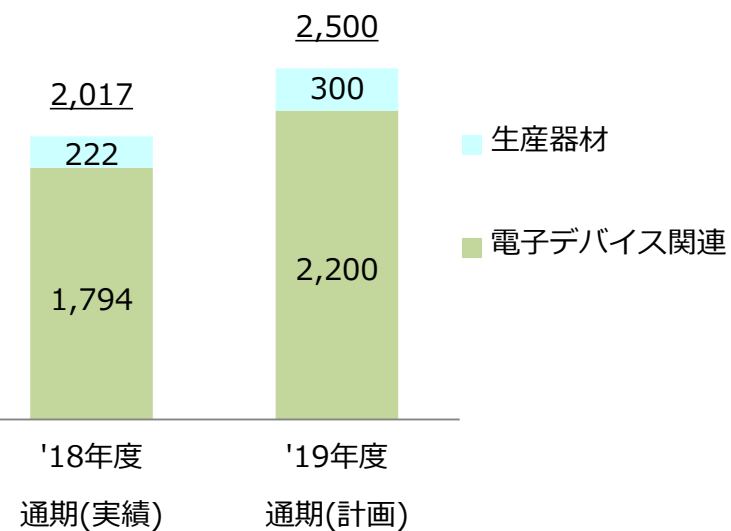
設備投資



減価償却費



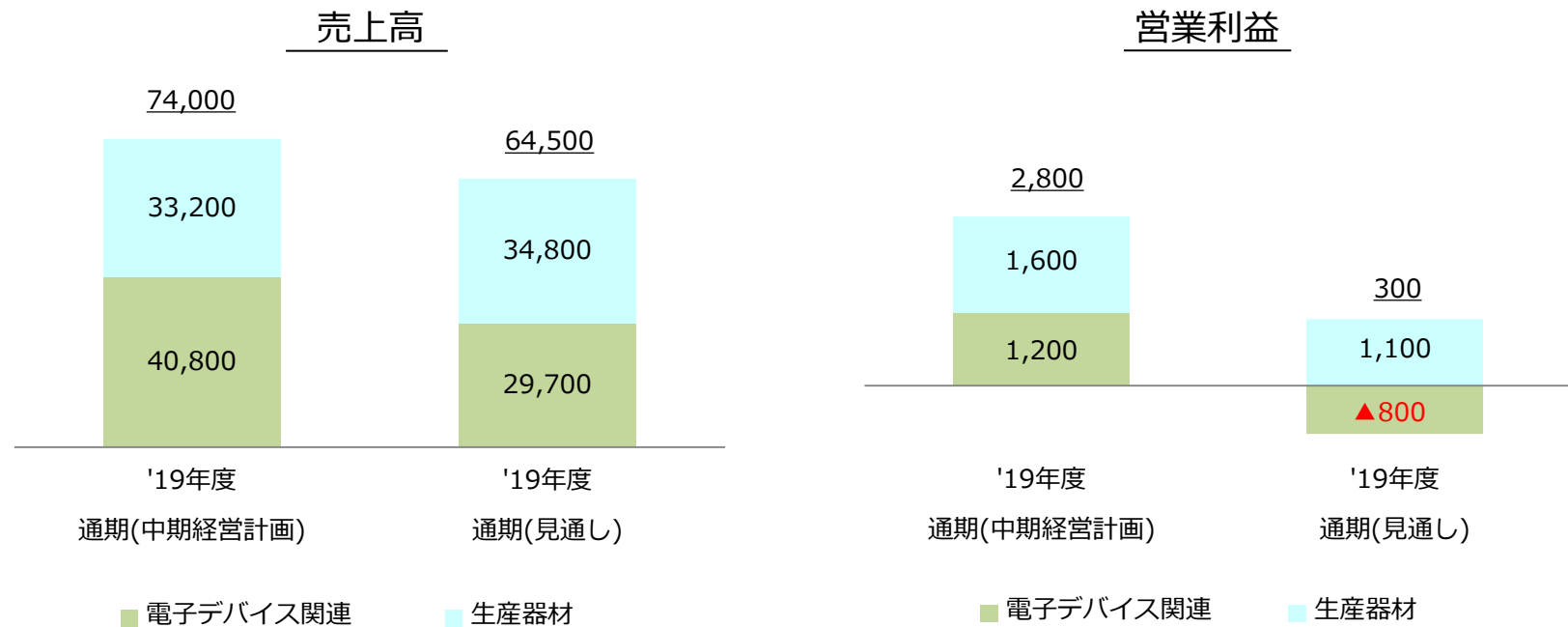
研究開発費



■ 生産器材
■ 電子デバイス関連

中期経営計画と見通し

(単位：百万円)



<売上への主な影響要因>

- ▶ 有機ELディスプレイ・タッチセンサーにおいて従来製品のコモディティ化が進行
- ▶ ホビー用ラジコン市場の縮小とドローン事業の停滞
- ▶ 生産器材事業では社外リソースのグループ化による売上増加

<営業利益への主な影響要因>

- ▶ 電子デバイス関連事業では売上の減少に伴う操業度の低下
- ▶ 生産器材事業ではグループ会社におけるシステム開発、新事業開発への先行投資

今後の重点施策

■ 電子デバイス関連事業

- 有機ELディスプレイは車載用途や事務機用途などで独自技術による差別化製品を開発
- タッチセンサーは多様なニーズに対応できるフィルムセンサー等の新製品開発を推進し、車載用途に加え産業市場等への用途拡大
- 信頼性の高い通信を応用した無線ゲートウェイや各種センサー類をIoT市場向けに展開
- 産業用ラジコンはグループ化したセントラル電子制御株式会社との連携により、融合商品開発の加速と高付加価値分野へのドメイン拡張

■ 生産器材事業

- 金型用器材は、ICTを活用した自動生産システムの開発と実用化
- 成形合理化機器は新製品の展開とAI技術を活用したサービスの開発
- 株式会社カブクのオンデマンド受託製造サービスとの連携を強化
- 海外における成形合理化機器の販売体制を強化
- 海外事業統括機能の強化によるグループ間の連携と合理化の推進

上記施策を加速するため、積極的に外部リソースを活用

注意事項

1. 本資料に記載されている業績予想については、当社が現時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいた見通しであり、為替などの潜在的なリスクや不確実性を含んでいます。
実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは異なる結果となり得る事をご承知おき下さい。
2. 本資料に記載されている金額は、百万円は単位未満を切り捨て、億円は単位未満を四捨五入して表示しています。